

## 令和7年度子ども若者県政モニター 知事とモニターの意見交換会



### ■開催概要

#### 1. 日時

令和8年2月28日（土） 10:00～12:00

#### 2. 場所

県庁20階 会議室

#### 3. 参加者

令和7年度子ども若者県政モニターの皆さん 43名

#### 4. プログラム

##### ○第1部 知事との意見交換会

- ・アンケート結果の活用報告
- ・意見交換

##### ○第2部 アトラクション

- ・県庁のお仕事クイズ
- ・県庁舎見学

### ■意見交換会





(モニター：小学4年生)

岐阜県の子育て支援策には、どのような取組がありますか。

(知事)

国も一生懸命、子育てを応援しようという政策を行っていますが、3歳から応援するものになっています。

岐阜県では、来年度は0歳から2歳のお子さんがある子育て中で大変な家庭を応援する予算をつけました。

(モニター：高校3年生)

国は、大阪副首都構想など地方分権に力を入れていると思います。岐阜県としてどのような役割を担っていくべきか、知事のお考えをお聞かせください。

(知事)

今日本では、若者がみんな東京に行ってしまいます。

だから田舎からどんどん人がいなくなって大変だ、というのが日本の問題です。

地方分権はすべて東京で決めるのではなく、もっと他の場所でも担っていこうという時に、大阪府が出てきたというのが現状です。

実は岐阜県は、日本の真ん中にあり、素晴らしい場所なのです。将来、リニアが完成すると、東京から岐阜まで1時間弱で来ることができます。そうになると、東京も楽しめるが、自然豊かな岐阜県も両方楽しむことができる。リニアが出来てワクワクするのは、実は東京の皆さんなのです。

よって、将来的に豊かに暮らすための役割を岐阜県が担うことができると考えています。

(モニター：小学4年生)

長野県などで水不足が起きていますが、水不足になったとき、岐阜県はどのように対応しますか。

(知事)

平成6年に大変な水不足がありました。その時には2つ問題になりました。

1つ目は、岐阜県の徳山ダムという日本一のダムからどうやって水をないところに運ぶのか。2つ目は、木曽川という県に流れている別の川があるのに、岐阜県はこの川の水を使えないという江戸時代からのルールを変えられないかということ。この二つが大きなテーマになると思います。

そのほか、長野県の水不足にも理由があり、植林で杉やヒノキを植えすぎて山に水が溜まらないことが考えられます。

岐阜県は、計画的に針葉樹を広葉樹に変え、山がいっぱい水を蓄えられるよう変え、そして、水があるところから水を運んで利用できるように、さらには山自体が水を蓄えられるようにしていきたいと思っています。

(モニター：中学1年生)

最近、剣道をやる人の数が減っていて、大会の回数がどんどん減ってしまいます。

剣道は礼儀を重んじている良いスポーツなので、大会を増やしたり、県のSNSで取組を周知したりできますか。

(知事)

来年度から岐阜県の政策に「武道」を正面から取り入れていきます。

もちろん、日本の人口が減っているから、やる人は減ってしまいますし、やってみたい人でも、急に「剣道をやろう！」とはならないと思います。

武道は日本人も関心があると思いますが、世界中の皆さんがすごく関心を持っています。武道はどのようなことが学べるものなのかと興味を持っています。

武道の歴史を伝えることで、海外の皆さんもやってみたいという人が増え、世界の人が関心を持てば、日本人も関心を持ちます。さらには、日本刀が欲しくなれば関市という日本一刀を作っている場所があり、岐阜県は武道をするには最高の場所だと思っています。

(モニター：高校3年生)

私は、「教育格差」と「体験格差」の是正に感心があり、学生団体を立ち上げて、居場所づくりや教育支援の活動をしています。

県や国からの公的な支援と、ボランティアのような地域での支援がどのように役割分担していくべきか、どう関わっていくべきかという点について、知事の意見をおたずねします。

もう一つ、私は英語教育に関心があり、小学校や中学校の体育や音楽の授業を英語ですればいいのかと考えています。英語は理解するより体験して学ぶことなので、英語の先生も入れて行うといいという考えを持っています。

知事が現在の教育システムやカリキュラムに感じている課題やそれに対する考えがありましたらお聞かせいただきたいです。

(知事)

すごく大事なことで、素晴らしい考えだと思います。

日本では英語を小学生から学習していますが、何十年勉強していても英語を話せる日本人はとても少ないです。私がイギリスに行った際、英語を学んでいた語学学校の校長先生から「日本人はイギリス人でもわからないような文法の問題に満点を取るが、英語が話せないのはなぜ」と質問を受けました。それは、英語を国語や社会のように「英語の知識を学ぶ学問」にしてしまったことが原因で、日本の教育の最大の失敗だと思っています。

英語は本来、体育や音楽と一緒にあり、話せることが当たり前で、その先を勉強しなければいけないのに、その先のことしか教えないので一番大事なことが抜けている

と思っています。体育と同じように、言葉を使うような形にするというアイデアは、まだ文部科学省も出来ていないので、まずは岐阜県からその取組をやってもいいと思います。

さらに、岐阜県は全国に先駆けて、1年生から3年生までで1つのクラス、4年生から6年生までで1つのクラスを作り、先生から教えてもらうだけでなく、学年の違うお友達に分からないことを聞いたり、自分はもっと他のことをやりたいという子がそれを取り組めるように教育を変えていこうと考えています。

学校の中の仕組みも変わり、国語や算数などの教科だけじゃなく、農業や体験、自然や歴史も学べるようにしたいと思いますので、是非将来そのような仕事に携わってほしいと思います。

(モニター：小学3年生)

2024年に岐阜県に来る外国人がたくさんいましたが、それはなぜだと思いますか。

(知事)

世界の人にとって、日本はすごく魅力的な国です。

皆さんは日本で生まれ育っているので、当たり前だと思っているかもしれませんが、日本は世界で一番平和で、一番安全で、一番美味しいものがあり、一番健康でみんな優しいことを世界の人たちが知っています。

そして、日本に来てみたい外国の人が行ってみたい街の5本の指に岐阜県が入ります。白川郷、高山、下呂、馬籠宿、関ヶ原など。

さらに、自分の国では仕事が出来ず、食べるものも買えないから外国で仕事がしたいという人も世界にはたくさんいて、その人たちは日本が安全でお金がたくさもらえるから来るという人達もいます。

色々な考えの人達もいますが、海外から来てくれた人には感謝をし、働きたい人には外国人も日本人も同じように働ける環境を作ることが大事だと思っています。

日本はすごく魅力的なので、岐阜県がもっといいところになれば、海外の人をもっと来てくれると思います。

(モニター：中学2年生)

家では、育てている野菜の野菜くずから堆肥を作り、その堆肥で野菜を育てています。また、畑でた野菜の残りや雑草は鶏が食べられるようにしています。そして、その鳥の鶏糞や卵の殻を土に戻して野菜を育てています。さらに井戸があるため、災害時にも役立ちます。

捨てていたものが土を育てていることを知り、「捨てないで育てる暮らし」が広がるといいと思っています。また、学校や地域でこのような循環を体験できる機会があると、環境にも防災にも役立つと思います。

(知事)

昨年、米の値段が高くなって大変でしたが、現状の野菜の作り方や米の作り方はダメなのではないかというところから、「アグリパーク構想」が始まりました。

日本だけでなく世界の農業は化学肥料を使い、どんどん機械化して収入を増やしていますが、化学肥料を使うと農作物は急に大きくなりますが、生き物は急に大きくとると弱いところが出てきます。そこに害虫や病気が発生して、次に農薬を使うことになります。その結果、世界中の土がダメになってしまいます。

生ごみや動物の糞を入れたほうが土が良くなり農業が続いていくので、健康で社会が成り立つように今までの化学肥料などのやり方をやめませんかという取組が世界中で始まっています。

野菜はもともと無農薬であり、植物は自分で身を守れるようになっています。良い状態の土で育った野菜は農薬が要りません。一番良い野菜を作るためには、一番良い土を作ることがすごく大事なことだと考えています。今、当たり前であったところに戻ろうとしています。

(知事のコメント)

小学校1年生から高校3年生までの皆さんが、県からの資料を見て、考えながら一生懸命説明を聞いてくれていました。素晴らしいことだと思います。

なぜこのような事業をやるのかというと、実は大人よりも子どもの意見のほうが正しいことがあります。大人だと初めから出来ないとおきらめることがありますが、皆さんが「やっぱりこれはおかしくない?」とか「こうしたほうがいい」と感じるもののほうが正しいと思います。そういうことが政策になっていくし、それによって皆さんの周りがどんどん良くなります。

皆さん自身が、「未来を変える」というつもりでこれからも頑張ってください。



■ 県庁お仕事クイズ、庁舎見学の様子

